

詩吟クラブは、昭和46年に公民館の詩吟教室によって生まれたクラブ。現在クラブ員は37名で20年の活動歴を持っています。

長く指導にあたっていた先生は、すでに故人となられた鈴木唳風先生でした。

鈴木先生が、唳風流唳風会の宗家として、光町を中心に近隣の門下生を指導していた関係で詩吟クラブはこの唳風会に属しています。

年に1回、研修旅行を行って会員の親睦を深めているほか、八街町、大栄町など他町との交歓吟詠会も行っています。また、毎年行われる県のコンクールやコンピア全国コンクール県大会にも出場し、これまで数多くの入賞者を出しています。詩吟とは詩を吟ずる——偉い人や武将などが詠んだ詩

健康に大きなプラス!

には中国の漢詩を含めて、作者の心境や情景に心を打たれることもあります。

このような詩を作者になりきって詠い、その世界に入っていく。そこには、日本古来の武道の精神といったものが

含まれており、現代社会の世俗を超えた何ものかがあるものと考えられます。

音吐朗々、詩吟を詠えば多少の悩みやストレスは吹き飛んでしまうでしょう。

詩吟には、詩を吟ずる「吟詠」それに合わせて行う「剣舞」「居合」「詩舞」

がありクラブでもそれぞれに別れて練習しています。

詩吟は難しいものではなく、上手下手もありません。特別な法則もなく自分の好きなように詠えばよいので、そこに面白さと親しやすさがあります。

公民館クラブ紹介⑩

詩吟クラブ

また、何といっても健康的で、精神面でのプラスが大きいです。

クラブ員の齋藤明さん(上町)は、「胃が悪かったのですが、詩吟を始めてからすっかり良くなりました。人づくりに詩吟はすばらしいものを持っています」と、話してくださいました。

詩吟を習ってみたい方、仲間になりませんか。

活動日 毎週火曜日 午後7時30分～9時30分

会費 月額千円
※問い合わせは小林隆さん(☎1355)へ。



詩吟に合わせて行う詩舞、とても健康になります。

文芸

俳句

大叔母となりたる里の年賀席

藤代 ゆう

枯真菰捨て舟半身さらしをり

勝又 和徳

初霞村中に建つビル一つ

鈴木 南知

迎春や祖父の手製の午夢じめ

若梅あやめ

ご来迎隣は異国の人なりき

海保 きみ

挨拶も弾む笑いの初電話

山口 一秋

古稀にして燃ゆる意気あり初日の出

鈴木 草庵

孫と遊ぶ先ず新春のスケジュー

行方はじめ

初霞沼立つ羽音しきりなり

玉虫たけし

前景の橋静かなり初霞

(選者) 土屋 栗水

短歌

山峡にアワダチ草の黄なる花祖国忘れて咲き盛りをり

掛川 友代

しづしづと抹茶を運ぶくる人の作法にのれるしぐさ美し

掛川 友代

向後 泰治
ふるさとに寝過ごす朝の陽は高く障子にうつる干柿の影
佐瀬 初音

雨上がり部屋にさし入る朝日かけ釘打つ夫をやはらに包む
武田 立子

父よりの手紙の文字は母の手とひと目で分かる右上がりの癖
齋藤 佳子

短歌の師が教へ給ひしオリオン座季節風なきて今宵きらめく
鈴木 やす

悠悠と流れやまざる大利根の寒き夕べを渡し舟ゆく
津田 若菜

木枯らしに散りたまりたるくぬぎ葉は冬日を含みかすかにぬくし
宇井 ちい

里芋の味をほむればそを植えし夫の急死を涙に語る
齋藤 秀男

音たつる落葉ふみしめ登りゆく己巴と楓散る中
(選者) 齋藤つね子

